



# Newsletter

## 日本食物繊維研究会



No.10 Oct 2000

食物繊維の研究を新しい目で！	1
日本食物繊維研究会第5回学術集会プログラム	2
編集委員会より	8

### 食物繊維の研究を新しい目で！

日本食物繊維研究会  
常任幹事 笹山 堅

ILSI (国際生命科学協会) 誌64号に荒井 綜一教授 (農芸化学会会長) が巻頭言で『機能性食品というコンセプトを15年前にわが国から世界へ発信したのは、きわめて珍しい出来事であった』と述べられている。確かに当時米国の食品科学者の間で、日本のFunctional Foodに刺激されてPharmaceuticalとNutritionとの合成語でNutraceuticalというコンセプトを提唱した学者が何人もいた。翻って1981年にThomas Burkitt博士が来日された折り、Dietary Fibreの様々な訳語が新聞紙面で錯綜した。Dr.TrowelがDietary Fibreという“造語”で1977年に米国議会で講演した時も当然英語のFibreを頭に描いていたであろう。日本人は植物のスジは身体に良い、というコンセプトを大昔から持っていた。即ち、語義も、メカニズムも関係なく、経験に基づく“感性”で健康を守って来た。Dietary Fiberという米語が紹介されてから『食物繊維』という日本での造語が市民権を得るまでに印南先生始め諸先輩のご苦心は大変なものであった。国際的な大論争の決着が未だついている定義についても、桐山修八先生が世界に通用するコンセプトを日本から発信されている意義は極めて大きい。定義で定められた物質が正確に定量される為の定量法で 森 文平先生の提唱に優るものは、未だ海外からも聞こえて来ない。もんしろ蝶が互いに雌雄を認知出来るのは何故か？誰も気にも止めなかった。万葉の時代から共生してきたこの蝶より極彩色の南方の蝶の方が話題として面白かったからか？もんしろ蝶には紫外線を認知する感覚がある、太陽光の下で雌雄は互いにはっきりと色別されていたのだ、という事実の発見は人間に科学に対する謙虚さを求めている様にも思える。『そんな家畜の餌の研究で食品の研究室を汚すな』と罵倒を浴びせられながら始まった食物繊維の研究に、脚光が浴び、国の認める健康要素となった今日、既に研究余地は少ないと独断する研究者は極彩色の蝶のみに気を奪われる過ちを繰り返す事にならないか。各種のセンイが消化器官を通過しながら、どの様な働きをしているのか、20世紀に発見立証された食物繊維の研究は、分子科学、ヒトゲノム解明の応用学の時代を迎え新しい世紀にどう発展していくか、食物繊維研究会の活動並びに研究者への期待は大きい。2001年1月6日、日本に新しい時代が始まる。22省庁が16となり、産業界も国内競争に目を向けている企業は脱落し、志を同じくする企業が内外の壁を越えて協力出来る経営者が力を合わせて、新生日本を支えて行く時代の幕開けは目前である。

## 第5回学術集会プログラム

会場 東京農業大学（東京都世田谷区）

会長 田所 忠弘（東京農業大学生物応用科学科教授）

### 1. 行事日程

11月17日（金）

8:50～ 9:20	幹事会（2号館2階生物応用科学科会議室）
9:25	開 会（1号館4階合三教室）
9:30～11:10	一般講演発表（同 上）
11:10～12:00	ワーキンググループ活動報告（同 上）
12:00～12:30	評議員会（同 上）
12:30～13:20	昼 食（大学食堂ほか）
13:20～13:50	総 会（1号館4階合三教室）
14:00～17:30	シンポジウムⅠ（同 上） 「腸管免疫と食物繊維及び関連物質」
18:00～20:00	懇 親 会（校友会館グリーンアカデミーホール1階）

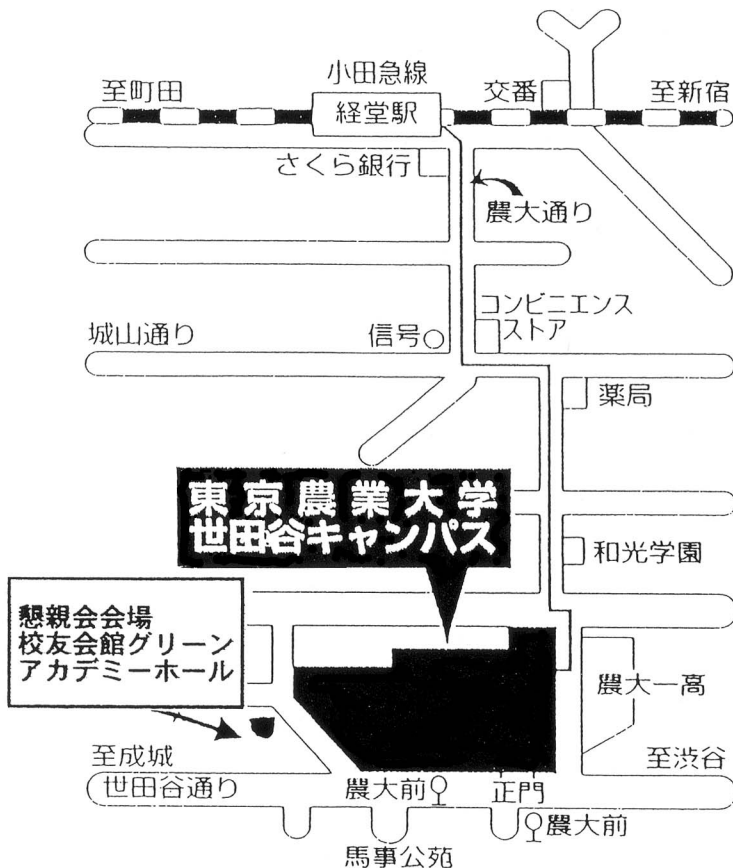
11月18日（土）

9:30～12:00	一般講演発表（1号館4階合三教室）
12:00～13:00	昼 食（大学食堂ほか）
13:00～16:00	シンポジウムⅡ（同 上） 「食物繊維および関連素材の新機能開発と利用」
16:00	閉 会

### 2. 参加者への御案内

- 1) 学術集会及び総会受付は会場（1号館4階合三教室）階下1階エレベーターロビーにて行います。参加費は正会員3,000円、学生会員1,500円、非会員4,000円です。
- 2) 呼び出しは特別な場合以外は行いません。17日はクロークの設置は行いませんが、2日目18日は4階教室にて手荷物を一時保管出来ます。
- 3) 昼食はキャンパス内の食堂や外近隣のレストランが利用出来ます。
- 4) 懇親会を第一日目17日（金）シンポジウム終了後に校友会館グリーンアカデミーホールで行います。是非御参加下さい（会費4,000円を当日頂きます）。
- 5) 会場への交通手段や大学から最寄り駅への電車、バス等の利用は次ページの交通案内図をご覧ください。

## ■ 東京農業大学 案内図 ■



連絡先：日本食物繊維研究会  
第5回学術集会事務局

〒156-8502

東京都世田谷区桜丘1-1-1

東京農業大学応用生物科学部

生物応用化学科栄養生化学研究室

田所忠弘または山本祐司

Tel.03-5477-2320 Fax.03-5477-2619

### \* 交通案内 \*

#### ■ 山手線 (渋谷駅下車)

バス (渋谷駅-農大前 30~40分)

- 1) 成城学園行・・・ (渋24)
- 2) 祖師ヶ谷大蔵行・・・ (渋23)
- 3) 狛江行・・・ (渋25)
- 4) 調布駅南口行・・・ (渋26)

◆ 小田急線 (新宿-経堂駅下車)  
南へ徒歩15分

#### ◆ 小田急線 (千歳船橋駅下車)

バス (千歳船橋駅-農大前5分)

- 1) 渋谷行・・・ (渋23)
- 2) 等々力行・・・ (等11)

#### ♥ 地下鉄新玉川線 (渋谷-用賀駅下車15分)

バス (用賀-農大前 10分)

- 1) 世田谷区民会館行・・・ (園02)
- 2) 祖師ヶ谷大蔵行・・・ (恵32)

#### ♠ 東横線 (田園調布駅下車)

バス (田園調布駅-農大前30分)

世田谷区民会館行・・・ (園02)

## 3. 一般講演プログラム

11月17日（金）

時刻	演題番号	演題
座長 : 桐山修八 (大妻女子大学・家政)		
09:30	1	ハイアミロースコーンスターチの血中コレステロール低下作用 野上浩孝, ○岸田太郎, 海老原清 (愛媛大・農), 小川博 (近大・医)
09:50	2	ハイアミロースデンプン摂取時の大腸内発酵の制御に関する基礎的研究 ○早川享志, 水田勝仁, 柘植治人 (岐阜大・食品)
座長 : 池上幸江 (大妻女子大学・家政)		
10:10	3	便秘症例に対するポリデキストロースの効果 ○松生恒夫, 鈴木康元, 野沢博, 西野晴夫 (松島病院・大腸肛門病センター), 森豊 (国療東宇都宮病院・内科)
10:30	4	中高年女性の家庭料理における食物繊維に寄与する食品・調理品 ○三成由美, 福本あずさ, 楠喜久枝 (中村学園大・短大部) 徳井教孝 (産業医科大・臨床疫学), 印南敏 (東農大)
10:50	5	総食物繊維定量法 (AOAC法) における新規酵素試薬の開発 ○多田周作, 高橋聡子 (大和化成株)

## 4. ワーキンググループ「活動報告と討論」

座長 : 印南 敏 (東京農業大学)		
11:10	①	はじめに 印南 敏 (東農大)
	②	定量法検討部会 印南 敏 (東農大)
12:00	③	定義・用語・分類検討部会 桐山修八 (大妻女大)
まで	④	プロジェクト研究検討部会 池田義雄 (タニタ体重科学研究所)

## 5. シンポジウムI「腸管免疫と食物繊維及び関連物質」

Symposium I 「Dietary Fiber and Intestinal Immune Response」

11月17日(金) 14:00~17:30 世話人: 印南 敏 (東農大)・坂田 隆 (石巻専修大)

時刻	演題番号	演題
14:00~		はじめに 印南 敏 (東農大)
座長 : 池田義雄 (タニタ体重科学研究所)		
14:05	1.	腸管免疫 (上皮内T細胞を中心として) : Over View
~		Intestinal Immunology : In the Context of Intraepithelial T Cells 石川博通 (慶応大・医学部・微生物学教室)
座長 : 原 博 (北海道大学・農学部)		
14:55	2.	腸管免疫応答の誘導機構と食品成分
~		Mechanisms of the Gut Immune Response and Food Components 八村敏志 (東大院・農生科・応生化)
15:25	3.	難消化性糖質と腸管中 Ig A 分泌応答
~		Effect of Indigestible Saccharides on Immunoglobulin A Secretion to Gastrointestinal Tract 工藤慶太 (市立名寄短大・生活科・栄養)
休憩 : 10分		
座長 : 山田和彦 (国立健康・栄養研究所・応用食品部)		
16:05	4.	食物繊維の抗体産生調節機能
~		Immunoglobulin Production Regulating Activity of Dietary Fibers 山田耕路 (九大・農学研究院・食糧化学)
16:35	5.	腸管免疫とオリゴ糖 –ビフィズス菌を中心として–
		Intestinal Immunity and Oligosaccharides –Functions of <i>Bifidobacterium</i> – 保井久子 (ヤクルト(株)中央研究所)
座長 : 坂田 隆 (石巻専修大学・理工学部)		
17:05~17:30		総合討論
17:30		おわりに 印南 敏 (東農大)

## 6. 一般講演プログラム

11月18日（土）

時刻	演題番号	演題
座長：竹内政保（日本食品加工株）		
09:30	6	高アミロース小麦澱粉粉のレジスタントスターチについて ○藤田修三, 相内理沙, 丹波順子（三重短大・食物栄養）, 山守 誠（農水省東北農試）
09:50	7	人における排便促進および便性状改善食品の食物繊維添加量について ○中村禎子, 河島崇明, 奥 恒行（県立長崎シーボルト大・栄養健康）
座長：片山洋子（福岡女子大学院・人間環境研）		
10:10	8	ガラクトシルスクロースおよびイソマルトースオリゴ糖の消化性 およびその機序について ○河島崇明, 中村禎子, 奥 恒行（県立長崎シーボルト大・栄養健康）
10:30	9	低カロリー性単糖 D-タガトースの小腸二糖類分解酵素活性 に及ぼす影響 ○山田和彦（国立健康・栄養研究所・応用食品科学部）
10:50	10	水溶性食物繊維はラット腸管粘膜による Ca 吸収を直接促進する ○峯尾 仁（ホクサイテック財団）, 原 博, 富田房男（北大・農）
座長：山下亀次郎（筑波記念病院）		
11:10	11	粘性のある食物繊維は食餌性 RNA の代謝に影響する ○古口 崇, 田所忠弘, 前川昭男（東農大・生物応用化学） 和田政裕, 印南 敏（東農大・栄養）
11:30	12	ガラクトサミン肝障害発症に及ぼす食物繊維の抑制作用 ○台蔵彩子, 浮田陽子, 松浦悦子, 江頭祐嘉合, 太田剛雄, 真田宏夫（千葉大・自然科学研究科）

## 8. シンポジウムII

## 「食物繊維および関連素材の新機能開発と利用」

Symposium II 「New Development and Utilization on Functions of Dietary Fiber  
and Related Materials」

11月18日(土) 13:00~16:00 世話人: 田所忠弘・和田政裕 (東農大)

時刻	演題番号	演題
13:00~	はじめに	田所忠弘 (東農大)
座長 : 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大学・栄養健康学科)		
13:05 ~	1. 大麦麦芽 DF の機能と利用 Development of Germinated Barley Foodstuff as the Special Foodstuff for the Patients	金内 理 (キリンビール(株)応用開発センター)
13:35 ~	2. キチン・キトサン関連物質の機能と利用 Properties and Availability of Monosaccharides and Oligosaccharides Derived from Chitin and Chitosan	川口光朗 (焼津水産化学工業(株))
14:05 ~	3. 食物繊維素材利用プロバイオテックスの効果 Utilization of Dietary Fiber Materials to Probiotics	木村修武 (日清製粉(株)ファインケミカル研究所)
休憩 : 10分		
座長 : 早川享志 (岐阜大学・農学部)		
14:45 ~	4. 海藻多糖類: 寒天およびフコイダンの機能と利用 Polysaccharides from Seaweeds: Agarose and Fucoidans as Functional Foods	加藤郁之進 (宝酒造(株)バイオ研究所)
15:15 ~	5. カードランの機能と利用 Physiological Function and Food Utilization of Curdlan-beta (1→3)-D-glucan	清水 純 (東京農業大学・応用生物科学部)
15:45	まとめ	和田政裕 (東京農業大学・応用生物科学部)
16:00	おわりに	田所忠弘 (東農大)



## 編集委員会より

本年11月17、18両日に渡り東京農業大学・田所忠弘教授を集会長に第5回学術集会が開催されます。一般演題に加え、腸管免疫や新機能素材をテーマにしたシンポジウム、そしてワーキンググループの活動報告など最新の研究情報が盛り沢山となっています。会員の皆様はもとより関心ある研究者、企業の方々をお誘いの上多数の御参加を期待しております。

また、一般公開セミナーを本年12月3日に「腸の健康と食物繊維」と題して銀座ヤマハホールで開催予定です。こちらにも多数のご来場をお持ちしております。

### 会員状況：平成12年8月31日現在

正会員	206名	学生会員	4名	賛助会員	35社
団体会員	4団体	名誉会員	6名		

### 【賛助会員】

参松工業株式会社	太陽化学株式会社	株式会社荻野商店
全国精麦工業協同組合連合会	大日本製薬株式会社	日本食品化工株式会社
佐合食品工業株式会社	ダニスコカルタージャパン株式会社	大塚製薬株式会社
雪印乳業株式会社	伊那食品工業株式会社	財団法人日本こんにやく協会
株式会社はくばく	日本ケログ株式会社	株式会社林原生物化学研究所
社団法人菓子総合技術センター	松谷化学工業株式会社	サントリー株式会社
オリヒロ株式会社	株式会社カイゲン	富士バイオ株式会社
日清製粉株式会社	山之内製薬株式会社	日本甜菜製糖株式会社
武田薬品工業株式会社	日本バイオコン株式会社	旭化成工業株式会社
株式会社横浜国際バイオ研究所	第一出版株式会社	清水化学株式会社
日清食品株式会社	三和澱粉工業株式会社	雪印食品株式会社
昭和産業株式会社	株式会社 日健総本社	(順不同)

### 日本食物繊維研究会 JDF News Letter No.10

発行日 : 2000年10月20日  
 発行人 : 日本食物繊維研究会会長 印南 敏  
 編集人 : 奥 恒行、青江誠一郎  
 事務局 : 日本食物繊維研究会事務局  
 〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1  
 国立健康・栄養研究所 応用食品部内  
 TEL : 03-3203-5602, FAX:03-3205-6549  
 印刷所 : 株式会社 交友社  
 〒136-0072 東京都江東区大島8-38-5

